

が、真逆もあったのです。宝塚歌劇を陰で支えながら、悔しい思いをしたであろう男子部のメンバーは、きっと、弱い立場の人に優しいに違いない、と信じている私です。

## 社会の変化 菅沼 良次

集団的自衛権が閣議決定されました。あれだけ大きな壁であり、議論しつくされても決められなかったことがいとも簡単に決定されました。日本国憲法前文にある平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した、という文言も他国の度重なる異常行動によって危うくなってきました。市民は増税と所得減少で苦しんでいます。時代が大きく変わろうとしています。今、私もこういう時にどう立ち向かっていくべきかを深く考えさせられています。明確な答えは出ませんが、まず自分が精神的に健全であろう。今を精一杯がんばろうと思っています。皆様のまわりも公私ともにいろいろあるかと思いますが負けずに朗らかに楽しく乗り越えて参りましょう。

## 最近思うことの1つに・・・ 梶浦 洋一

最近の日銀の短観を見ていると、景気の動向は一進一退【アベノミクス】は、株価が頼りなのか。わが国経済の成長戦略といわれる【アベノミクス】の第3の矢は、考えつく数多くの手法を並べ立てている感じが強い。「・・・数(かず)打っちゃ当たる!方式」か?女子力活用など女性受け狙いの向きも窺えるが、採用され、登用されて、その後はどうなるか、国家公務員で女性を30%採用するというが、それで何がどうなるのか、長い目で見届けなければなるまい。

国家経営的見地からいえば、人の配置は『適材適所』。「適所に適材を配置してこそ、本当の仕事ができる、というものだ」との声が聞こえないか。

人口減少問題は、今に始まった話ではない。少子高齢化問題は、数十年前から、世界で一番進行していると云われてはきたものだが、与野党とも、久しく真剣に論じて具体策を確立するための行動の形跡が見えてなかった。思いつきや付け焼刃の感

## 平和な社会の継続を願う! 西岡 恵子

国は、今日まで防衛費は対G N P比で1%という枠内で収め、その分を経済成長や福祉政策に充当してきましたが、安全保障政策の転換は、深刻な財政危機の続くなかで膨大な予算が伴うことが予想されます。

多くの犠牲の下に戦後69年間守り受け継いできた「平和憲法・憲法9条」の恒久の平和を願い、戦争の放棄・戦力の不保持・交戦権の否認により、日本は平和で戦争のない社会が築かれてきました。しかし、集団的自衛権の行使容認へとハンドルが切られ揺らいでいます。戦争体験者が高齢化し声が薄らいできた今、

「災いは忘れた頃にやってくる」ことのないように、ご苦労された皆様が穏やかに暮らせますように、

## 会員からのホット情報

何時いかなる時にも武力行使はせぬように、  
子や孫たちが 戦争や紛争に巻き込まれませんように、  
と切に願うところです。

## 子育て日誌 2014年7月 黒松 正代

今年の夏は、ワールドカップで盛り上がりを見せましたが、日本は残念ながら1次リーグで敗退。世界の壁の厚さを改めて感じましたね。

雅幸が通っている幼稚園でも、「ワニ」ワールドカップと題して園児たちが各国に分かれて対戦をしました。雅幸はアメリカチームで初戦をブラジルと闘いました。雅幸もゴールを決めたそうですが、2対3で1回戦で早くも敗退。負けたのがとても悔しかったようで、「アメリカ負けた、悔しい。試合をもっとしたかった。」「○○くんが○点とった。パパと練習したっていったよ。」と、雅幸も上手になりたいとパパとサッカーボールを蹴って練習をするようになりました。

最近、悔しいという気持ちから競争心が芽生えて頑張ろうという気持ちが少し出てきたようです。公園に行くと、自転車を補助輪なしで同じ年ごろの子が走っていて、「簡単に乗れるよ。教えてあげようか。」と挑発され、悔しい気持ちが出てきて、なんとか乗れるようになりたいと乗れる子の後についていて、補助輪なしで走る練習をしました。すぐには乗れないものの、なんとかあの子のように自分も乗りまわしたいという気持ちになったようです。外へ出ているんな子たちと一緒に体験をし、ともに切磋琢磨することで、成長していくものなのだと改めて感じました。

5歳を迎えたこの夏も、いろんな体験や交流をすることで、少しずつできることや楽しかったと思えることが増えていくてくれたらいいなと思います。それと併せて親である私自身も雅幸を通していろんな発見をしたり、学びながら親として、人としての成長ができたと思います。



梅シロップづくりをお手伝い中。はやくできるといいなあ。

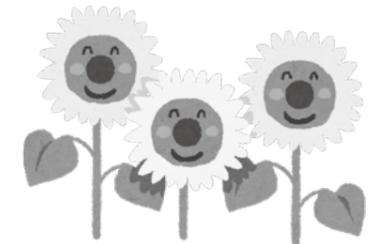


# ストップDV・サポートの会 No.19 News Letter

発行日 2014年7月吉日  
発行所 徳島市八万町橋本12-3  
発行人 東条 恭子  
PHS 070-5680-3822  
ストップDV・サポートの会  
ブログ  
http://blog.livedoor.jp/dv\_support\_mori/



## 暑中お見舞い申し上げます。



毎日暑い日が続きますが、皆様にはご健勝にて、ご活躍のことと思います。

ストップDV・サポートの会を2005年5月に立ち上げ、ドメスティックバイオレンス(DV)を受けている方が、たちまち大変な状況から抜け出していただくために経済的支援として1口3万円(無利息)の貸し出しを行う等、6月末現在67件の支援につながる活動を続けてきました。

去る5月10日、第10回定期総会並びに「設立10年記念講演&シンポジウム」を無事終えることができましたのも、ひとえに会員・賛同関係者の皆様方のお陰と心から感謝申し上げます。

また、今回設立10年記念講演の中で、河野和代さんから、『暴力の根底に流れるものは「性差別」「人権問題」です。日本は、2000年前後からの法整備から大きく変化してきました。DV、セクシャル・ハラスメント、ストーカー行為、児童虐待などの「暴力禁止」と「男女平等社会」に方向転換した時期で、ストップDV・サポートの会の10年は徳島の状況に寄り添うものでした。』と評価していただけたのはとても嬉しかったです。

今後も悲惨な事態・事件がおきないように、女性と子どもの人権を守る「エンゼルランプ」や「DV被害女性の家族を支えるネットワーク」「DVに曝された子ども女性支援ネットワーク」等の他団体・行政や関係機関とも連携していくことを第10回定期総会で確認しました。

一人ひとりが尊重され、暴力と差別のない「安心、安全」な社会に向け、「支えあい・思いやり」を大切に、役員一同今後も力を合わせて取り組んで参ります。

今後とも皆さま方のご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願い致します。

ストップDV・サポートの会  
代表 東条 恭子

### 活動報告「貸出」

2013・5・24	第58号貸出
2013・6・18	第59号貸出
2013・7・12	第60号貸出
2013・11・12	第61号貸出
2013・11・21	第62号貸出
2014・3・1	第63号貸出
2014・3・12	第64号貸出
2014・3・13	第65号貸出
2014・3・28	第66号貸出

[返済内訳]  
 \*返済完了 (計20件)  
 \*返済中 (計17件)  
 \*返済なし (計15件)  
 \*連絡取れず (計14件)



### 【役員一覧】(アイウエオ順)

代表	東条 恭子
理事	梶浦 洋一、上地大三郎、滝川 稚也 林 恵子、山室 昭次、黒松 正代
事務局長	湯浅真由美
会計	坂東 清美
監査	川井ふみ子、菅沼 良次
顧問	木村 清志、高井 美穂



# 「森」 Report

## ストップDV・サポートの会設立10年

### 記念講演&シンポジウムを開催して

2014年5月10日(土) 13時30分からヒューマンわーくびあ徳島で開催された標題の会に約35名が参加した。事前の13時からストップDV・サポートの会の第10回総会で2013年度の活動報告・決算を報告し、2014年度事業計画・予算を説明した。

坂東清美理事の進行で開会され、はじめに主催者を代表して東條恭子より、会に対してこれまで携わっていただいている皆様に10年続けられたお礼を申し上げ、設立時の状況の経過とDVがまだまだ遠い人のことと身近な問題となっていなかったが、少しずつこの10年で変わってきた。娘が妻が母が「笑顔」で暮らせる社会こそ次の世代を担う子どもたちにとって必要。DVの浸透を広げ、声を挙げやすい体制を作り誰もが安心して暮らせる社会・徳島にしたいと挨拶があった。

### DVはとっても身近な問題

その後、「今、徳島のDVとジェンダーの現状は!」と題し河野和代さん(フェミニストカウンセラー)から、DVは自分に関係ないと思っている人が多いが、実はDVが一番身近な夫婦関係を問うものだったり、人と人との関係が問われるもので、とっても身近なものだ。だが、特別なものとして横に置かれているのが実態だ。持って生れた身体的性差以外は誰が担ってもいいことなのに、女性と生まれただけで役割がすべて決まってしまう。「女性は、こう」「男性は、こう」と自分の育った周りの環境で自分で自分の生き方を思い込んでいることが性差をより助長していくことになる。暴力の根底に流れるものは「性差別」「人権問題」だ。日本は2000年前後からの法整備から大きく変化していく。DV、セクシャル・ハラスメント、ストーカー行為、児童虐待などの「暴力禁止」と「男女平等」に向けて方向転換したときでストップDV・サポートの会の10年は徳島の状況に寄り添うものであった。と過去の問題からさかのぼり2001年にDV防止法ができ2006年には吉野川事件がおき全国の支援者を震撼させた。法があっても使えない実態、ストーカーや虐待も後を絶たない。シンポジウムの中でより具体的事例も含め話したい。(10分の休憩)



### シンポジウム

コーディネーターに講師の河野和代さん、パネラーに「娘の死の真相を」増田則代さん、「日本女性会議のDV分科会に関わって」福谷美樹夫さん、「ストップ・DVサポートの会に関わって」梶浦洋一さん3名にそれぞれの立場から見えてきたDVを話していただいた。

まず、増田さんから2011年11月奈良県に嫁いでいた一人娘さんを亡くした。結婚5年でうつ病を患い治療しながら2年後自死という中で娘はなぜ死を選ばざるを得なかったのか。(大切に育てた一人娘の存在を大切なものとして認めて欲しかった)、当初はつれて帰れなかった母親としての罪悪感で眠れない日々もあった。今後は娘の生きた証として娘のような事件をなくすため、民事訴訟を起こす準備をしている。多くの方のご支援をお願いしたい。

福谷さんから2013年10月日本女性会議が開催されることとなり、どういうわけかDVの分科会を担当することになった。研修・勉強会をするにつれ、DVが遠い存在から身近な問題と思うようになり夫婦関係が鍵を握りこれは男性問題だと意識が変わった。



南部の女性相談を見たとき80%が暴力と浮き彫りになり、改めてこの問題を真剣に取り組むことを決意。特に理解してもらえ男性を増やすことを重点に「パープルシードあなん」を結成し、今後活動していきたい「男性は女性からやさしく言われるとわかる」と話された。

梶浦さんから、ご自分の娘さんがDVを受け、離婚させていたことをこの場ではじめて話された。男親として娘の存在はまた違う。梶浦さん自身も4歳のとき父親が戦死。母親一人で、妹の二人の子どもを育てた。借金と生活苦に親子心中も考えたこともあったと振り返る。お金の困り果てた中で、人様の大切なお金はなんとしても返すという気持ちは持ち続けた。今回の基金貸出しの半分は返ってこない。貸出しへ付き添った関係機関もこのストップDV・サポートの会を存続させたいのであればその後の返済状況も関係者とも充分関わって返済を促して欲しいと訴えられた。

最後に河野さんから取り組みの中で困ったことなど意見交

換があり、幸せな加害者はいない、家族や身近な人間関係の居心地の良さは心の健康であり、生きる力の源だ。柔らかに風通しの良いお互いが尊重し合える人間関係を学び、創ろうと話された。

坂東さんより講師・パネラーの皆さまにお礼を込めて拍手で閉会。最後に心あわせ・気持合わせとして梶浦さんの一本締めで締めくくり、とても充実した「会」となった。

### 会員からのホットと情報

#### 「友愛フリマ」～賀川豊彦記念館主催のフリーマーケット

川井ふみ子



2014年6月7日(土) 10時より、賀川豊彦記念館駐車場にてフリーマーケットを初めて開催しました。お天気心配されていましたが、だんだん雲間から日差しが出て来てとても暑くなってまいりました。

今のところテントがないため出店者の方々にはご迷惑をかけています。

今回は、鳴門教育大の大学院生のオリジナルのアクセサリや木彫りのとても精巧に作られた昆虫やアニメのキャラクターなどを持ってきてくださり、とても楽しく見せていただき販売していただきました。また、開催に際しては、湯浅さんのアドバイスでいろいろな改善をすることができました。

何事も初めてということで緊張しましたが、熱心な出店者の方々やボランティアでお手伝いをしていただいたおかげで無事に終えることができました。次回は、9月6日(土) 10時から12時すぎまで開催いたしますので、覗きに來てください。

#### 「鳴門の第九」

山室 昭次

今年も「鳴門の第九」の合唱団に参加しました。長年歌っていた長老の一人が今回は参加できず、合唱団員の高齢化が顕著になり、次世代の育成が課題です。2018年の第九国内初演100周年に向け、カウントダウンも始まりました。また、「第九」のブランド化も始まって来ています。第九がこんなに演奏されている国は、日本ぐらいです。特に一般の人が合唱する演奏会では、「大阪一万人の第九」、「国技館五千人の第九」とともに、いやそれ以上に「鳴門の第九」は、第九ファンの間では「第九のふるさと」として有名になっています。鳴門市民の一人としても、鳴門の活性化につながるよう考えたいと思います。また、男女が共に歌い、歓びを分かち合うこのようなイベントは

世界中のどこを探してもないと思います。今後も平和を願う者としても続けていきたいと思っています。

#### 「ひとり」の時は、また違った楽しみ方がある

坂東 清美

皆さんは、一人で外食したり、カフェでお茶したりできる人ですか?ちょっと抵抗があるという方も、ぜんぜんOKという方もいらっしゃるでしょう。私は一人暮らしの経験があるせいか、一人でもOKです。もちろん、誰かと一緒だと楽しいのですが、一人の時は、また違った楽しみ方があります。

それは、一緒にその店内に居合わせた人々の会話に、聞き耳を立てちゃうんです(笑)老若男女、いろいろな世代の人のお話を、お伺いできます(笑)昨日もあるパン屋さんのテラス席で「幼稚園の時にね、すごく変わった子がいて、皆がその子を変わっているって言っていた」「誰もが、そのような目で見ている」「大きくなったその子は、大阪大学に行った」という内容のお話でした。

また、別の日には、弁護士さんらしき人とクライアントさんらしき人が隣の家とのトラブルについて話「隣の家との境目に置いた鉢植え・・・」について、聞き耳のサイズが大きくなりまして(笑)

そうそう、あの松任谷由実さんも、一人で行って作詞のネタを仕入れたそうです(笑)一人は、そういった社会勉強のチャンスでもあります。ぜひ、お試しを(笑)

#### 宝塚歌劇を観劇して感激!

湯浅 真由美

宙組の「ベルサイユのばら」を観てきました。宝塚歌劇の演者は女性ばかりなので、男役の人は女性でありながら「男性を演じる」のが基本です。ところが今回、「ベルばら」の主演オスカルは、軍人として男のように育てられた女性なのです。女性である男役のトップは、「男装の女性を演じる」という、ややこしくて楽しい状態でした。フランス革命の時代を生き抜いた架空の人物オスカルに自分自身を重ねたり、原作コミックを夢中で読んだ学生時代にタイムスリップしたり、あっという間に時間が過ぎました。

ジェンダーとは、生物学的ではなく社会的文化的に作られる性のありようを示す言葉です。40余年前に「ベルサイユのばら」を発表した池田理代子さんが、ジェンダーを意識したかどうかは解りません。しかし、現在もお色あせない人気は、オスカルのキャラクターによるところが大きいと思います。男の格好をして武道に励み、主君に仕え、悲恋も経験し、と、女性にとっては心惹かれる主人公です。宝塚という豪華絢爛な舞台で、厳しい練習を重ねた役者達が演じているから、というのも、もちろんですが。

ところで100年の宝塚歌劇の歴史の中で、ホンの一時期、男子部が存在したのをご存知でしょうか?彼らは、宝塚音楽学校でレッスンに励んだものの、舞台裏でコーラスに参加したり、舞台装置を動かしたりするだけで、日の当たる場所に出る機会のないまま、解散したそうです。「表舞台に女は出られない」というのは、かつてよくあった(今もあります)事です

